

開会にあたり、校長あいさつ

<はじめに>

校長：感染症、全国的に増加傾向。本校では、そこまで増えていません。今後も気を付けていきます。銀杏祭もあり、広がりはないですが、寒暖差で体調を崩している子どもが増えてきています。泊を伴う行事、銀杏祭も終わり、冬休みに向けて進んでいます。本日は、授業アンケートや自己診断についてご意見をいただきたいです。自己診断アンケートについては、昨年度と内容は変わっておりません。また、学校経営計画の進捗状況についても途中なので簡単にお話をさせていただければと思います。

#### 1. 令和6年度学校経営計画進捗状況について

校長：前年度と大まかな変更はない。概ねできているところや課題のところを話していければと思う。

- ・中期目標「1. 安心安全な環境の中で、児童生徒がよりよく生きる意欲（自己肯定感）を育む場となる」について

で教員も非常に意識をして安心・安全を重点とした教育計画を作っている。

教育活動全体で、小学部はADL、中学部は、友だちとのコミュニケーション、高等部は、卒業を見越した形で

の計画を立てている。保護者に安心して委ねてもらえるようにしたい。

- ・中期目標の「2. 保護者が安心して子どもの教育を委ねることができる場となる」の（2）大災害時等、不測の事

態から児童生徒を守る校内設備。組織体制の向上については、災害時の引継ぎ・引き渡し訓練を今年度もバス、放

課後等デイサービスもなしで保護者迎えという形で実施した。迎えの遅い子どもも若干いたが、ほぼ時間通りで

きたと思っている。（4）訪問教育については、スクーリングについても保護者が一緒に登校しても別室で待機で

きるようになっている。（5）学校HP やきめ細やかなメール配信サービス活用による学校情報のタイムリーな発

信については、メール配信の利用度が非常に高い。プリントでの配布はほとんどなくなってきており、メール等で

お知らせを配布するというようになってきている。今年度は、保健だより等や学部・学年通信系についても基本メ

ールで配信している。

- ・中期目標「3. 地域における支援教育の中心的役割を果たし、地域とともに児童生徒を育てることが

る」については、コロナの時期から比べると増えてきている。居住地校交流についても数が増えている。また、

地域の方々との交流も活発になってきている。本日は、小学部が福井小学校の5年生と交流をしている。

・中期目標「4. 児童生徒一人ひとりの障がいの状態や発達段階に応じながら、教科横断的にキャリア教育を行う場と

なる」のについては、キャリアマトリックスを意識した形でできつつある。まだ、完成形ではない。それは、評価等

がデジタル化されていない。電子システムに移行するが、府全体のスケジュールがずれ込んでいて動けない。学校

内で先にやってしまうと変更がでた時に、再度やり直さなければならないので、少しペンディングをかけている。現在は、評価のデジタル化を待っている状態である。

・中期目標「5. 教職公務員としての自覚と高い人権意識を備えた教職員集団のチームワークにより、児童生徒へ質

の高い教育を行う場となる」の教育公務員としての人権意識を持った接し方については、残念ながら少し低いと感じている。様々な事案が出てきており、子どものことを「ちゃん」付けて呼んでいたりと、呼び捨てにしたりすることが未だにある。実際に子どもに対して人権をしっかりと考えていないような支援や接し方などの事案がある。また、子どもに対して、少しからかうような部分もある。人権意識を欠くような行動を見た時に、周りの教員がダメと注意できるような環境になっていけば良いと思っている。来年度は、この5を中心的に目標として挙げていこうと思っている。

・高等部は、職業コースの拡充を重点的に行っている。今年度はPTA主催で、卒業した保護者に来校していただき、

グループ形式で相談等をする会を行った。保護者が集まり、話を聞いたり相談を行ったりした。

また、高等部卒業後の進路について、作業所等の動画を撮影し、中学部の生徒が視聴し説明を受けられる機会を設けた。少しずつではあるが、進路についての意識が広がってきている。

鈴木会長：わかりやすく、端的にまとまっている。自立活動は支援学校の基本。全職員に早めに習得してもらう必要がある。

習得すると子ども達に対する接し方や指導の仕方などに影響してくると思う。大変だとは思いますが全職員が意識を持てばよい学校になっていくと思われる。人権意識を欠くというのは、教職員としてあり得ない。日々努力をしているのはわかるが、事案が出てくるとものすごく残念なことになってしまう。研修をしても他人事と捉えてしまわないように、自分のことのように考えて研修を受けられるようにしてほしい。

校長：自立活動の分掌長が、車いすの片手押しについて注意喚起していた。初任者や転任者に配布する『基本のき』動画がある。それを再度視聴してほしいとアナウンス。新転任だけではなく、慣れてきている人にも視聴してもらい、基本に戻ってほしいと思う。また、よくない所を見た時には、自分たちで注意できるようになれば学習面でもお互いに意見を言い合えるようになっていくと思う。

そこを目指したい。

射場様：中期目標「4.児童生徒一人ひとりの障がいの状態や発達段階に応じながら、教科横断的にキャリア教育を行う場

となる」の（3）の校内外のスポーツ等を通じた交流および余暇活動の充実と児童生徒会活動の活性化について、

余暇活動の充実と児童生徒会活動の活性化と書かれているが今年度の取組みを教えてください。

校長：小・中に関しては、部活動はできない。中学部は、高等部と一緒にボッチャに活発に取り組んでいる。試合や茨木市主催の大会に出たりしている。また、高等部は、バスケットボールやサッカー、陸上、水泳などの障がい者のスポーツ大会的なものに参加している。最近では参加する人数も増えて広がってきている。ただ、校内で部活動をするというのが難しく、同好会止まりになってる。部活にすれば予算が付くがなかなか難しい。学校単独で地域の中に参加するのは難しく、紹介くらいになっている。茨木のおにクルで様々な催しを実施されていて、去年は、障がいがある方の音楽コンサートから招待状がきたので、小学部の数名が参加。茨木市の公民館に本校の児童生徒の作品が展示されたりしている。少しずつではあるが、広がってきている。

## 2. 授業アンケートについて

木崎教頭：指導力向上、授業力の向上をめざして、年に2回アンケートを実施。昨年度までは、コロナ化の影響もありながら実施していた。今年度はコロナ化前の状態で1週間ずつ、参観週間を設けて実施した。一回目が7月1日～7月5日の期間の参観週間に実施した。③の回収数に関して、中学部が少なくなっている印象だが、全体的には、例年と変わらない。半数の保護者が提出しているのではなく、一人の保護者が複数枚提出していることを加味して数値を見て欲しい。参観に来ることが難しい保護者もおられるし、すべての授業を見ていただくことも難しい。1週間という短い期間なので、このような結果になっている。例年一人の方が極端に低いスコアにチェックを付けて出されることがある。各学部の評価というところは、設問が1～5まであり、その枚数を表にしたものになっている。小・中学部は、「あまり思わない」の数が少なく、高等部に「あまり思わない」「思わない」のところにチェックを付けられている方がおられた。課題を共有しながら改善していきたい。

### ・5のコメント欄 授業内容等について

#### <肯定的な意見>

- ・教員が一生懸命体を張って活動に取り組んでいる。それが子ども達にも伝わっている。
- ・子ども達一人ひとりに寄り添った言葉かけが多く楽しみながら学ぶ環境が整っている。
- ・楽しく学べるような授業や活動が多く笑顔で溢れている。
- ・様々な教材を活用して視覚・聴覚・触覚を活用し飽きさせない授業を作り、興味を引き付け

ける工夫がな

されている。

- ・授業での楽しさを伝える工夫がみられる。

・先生達が子ども達に安全に配慮した言葉かけをしながら、活動を進めていくところが良い。

<工夫・改善が必要な意見>

- ・授業の中で、待つ時間が多くみられる。
- ・一部の生徒には難しいという課題もみられる。
- ・授業のペースが一部の生徒には早く感じることもある。ついていけない生徒に対する配慮が必要に感じる。
- ・タイミングが遅かったり静かに座っていたりする生徒に対して配慮が足りないのではないかな。

待ち時間のことについては、一人ひとりに応じた対応を行っている、安全に活動を進めていく中で、教員が複数人で対応しなければならないこともある。その時にどうしても順番などで待ち時間ができてしまうこともある。ただ、教員も意識して、待ち時間を少なくしていこうとしているところもみられる。また、課題の違う子ども達が同じ教室で学習している場面が小・中・高に限らずある。その中でも、一人ひとりにあった課題設定に取り組んでいる最中である。学習ペースの課題については、すべての生徒について配慮し学習することができる環境を整えることが必要。引き続き改善していけたらと思っている。言葉かけについては、肯定的な意見もいただいているがもう少し配慮が必要にも感じる。キャリアマトリックスを活用し、個に応じた授業作りを工夫して改善を行っていかれたらと思っている。成果が出てきている部分もあるが課題もまだまだある。分析をしながら共有し、研究部を中心として授業研究や全校研修でスキルアップを図り改善していきたい。

射場様：中学部の回収率が低いのは、どのように分析をしているか。また、全体の回収率を上げるためにどのような工夫をされているのか。

木崎教頭：回収率の結果については、中学部として分析をしているわけではない。学部の事情もあるので少なかった原因については分析できていない。回収数を増やすための取組みとしてアナウンスを早めにしている。今年度については、例年に比べて、授業参観より前に提出された方もおられた。授業参観に来られなくて他の授業を参観されて提出されることもあった。2回目については、12月2日～6日の期間に実施予定。参観の案内をしたり早めにアンケートの配付をしたりして回収数を増やせるようにしている。しかし、時期的に体調不良が増えてきていることもあって、授業参観に来ることが難しいこともあるので、なかなか、回収数を増やすことができるかという点で厳しい。

閑喜様：授業で子ども達が「待つ」という課題はない。ある小学校では、待つ時間の工夫として、「AとBを比べてみましょう」など言葉を少し言い換えたり、考える方法を子ども達に提示したりしようと研究部の先生方が取り組んでいた。授業の中で、子ども達に何を理解してもらいたいか、何が一人ひとりの目標なのかを明確にすることができると、子ども達もわかりやすい。待つ代わり

にこういった活動を子ども達に提示できるかという視点で考えていけたらと思う。

吉田様：授業アンケートの配付方法や回収方法、第1回目の参観の出席率を教えてください。

木崎教頭：保護者のアンケートについては記名式で2週間前をめどに封筒とアンケートを配布。参観週間にきていただき、アンケートを封筒に入れてBOXに入れていただくように案内している。複数の授業を見られた場合、学校にもアンケートと封筒を用意している。記名式で、個人情報にあたるので、必ず封をして提出してもらうようにしている。生徒についても、中学部、高等部で自分で回答できる生徒を対象に実施しており、記名式としている。生徒達のアンケートに関しては、第3回運営協議会で集計したものを報告する予定。授業参観出席率に関しては、回収率よりも少し少ない。基本的には、一人1~2枚程度だが複数枚提出している保護者の方もおられる。

### 3. 学校教育自己診断アンケートについて

#### 平水首席より資料の説明

平水：昨年度グーグルフォームから今年度はさくら連絡網を使用しての回収。アンケートの内容自体は変わっていない。生徒・保護者は26日までが期限となっている。27日~12月末で集計。第3回の運営協議会で分析結果を報告予定。回答率100%を目指したいところだが行事なども重なっており、低くなると予想される。

校長：質問は昨年度から変わっていない。方法が変わっただけでグーグルフォームは不備があった。回収率が悪く紙に戻すことも検討している。第3回の運営会議にてお叱りは受けるつもりである。

鈴木会長：教員についてはアンケートを出してください。基本回収率は100%のはずなので、出さないということはあ

てはならない。忙しくとも答えられない人はいないはず。保護者に出してというなら教員がしっかり出すこと。先生方には全員提出していただきたい。今年度よりさくら連絡網ということだが、保護者はやり方をわかっているのか。紙だとわかる。

校長様：現在、学校からの情報の多くはさくら連絡網を使っており、さくらに入っていない家庭には紙ベースでお配りし

ている。熟知しているとは言えないかもしれないが、保護者の方が反応はいい。教員は紙の時は100%だった。公務員であるからには出さないといけない。

鈴木会長：職員会議などでも伝えしっかり考えていただきたい。学校教育自己診断アンケートは、学校がどんな状態かがわ

かること。保護者や子どももどう思っているかがわかる。向上していく方を向かないと。それを活かして次年度変えていこうとなる。3月末までにはこんな学校にしたいということは出していた方がいい。下地は管理職の先生方の意向。あちこち向いていたら手が出せない。綻びは出てくる。少しずつ変わっていくはず。現場との乖離が大きくなり問題も大きくなり地域から支援されない。ぜひ、ここにいる先生方、積極的に自分事として頑張してほしい。100%目指して頑張りましょう。

#### 4. 使用図書について

担当の下田教務部長より資料の説明

下田：来年度の予定、教員に検討していただいた。タイトなスケジュールな中での提出。子どもの反応が良かったもの等を中心に検討を促した。教科書については実際に見に行ける機会があるが、提出のタイミングがあっていない。

考える時間があればよりよい。係りの先生と詰めていけたらと考えている。今年度準ずる教育の生徒がいる。先生の指导向けの教科書があれば組み立てやすいため、少しずつ買い足していけたらと考えている。

年度内年度初め跨いで使うものが複数ある。管理の方法を確認しながら年度末について話を進めているところ。

閑喜様：高等部道德の教科書は？

下田：ないが年間計画を立てて指導している。

閑喜様：用意しなくてもいいのか？

校長：道德だけではなく他も含めて取らなくてよいことになっている。小中とは考え方が違う。手作りの教材でやっている。

閑喜様：デジタル教科書についてはどうか。

校長：検定本を取っている子はデジタルでいけるが、されてないと難しいので教員が写真を撮って映すなどして使っている。デジタル教科書を使える子はあまりいない。メリットもあまりない。

鈴木会長：デジタル教科書は採択可能？

校長：可能だが、探したい情報を探するときなど冊子の方が探しやすい。1ページずつしか捲れない。使い勝手が悪い。持ち運びはしやすいというメリットはあるが、書き込んだりもできない。読み上げソフト読んでくれるので視覚障がいのある学校などでは便利。使える学校はあるが本校ではメリットが少ない。全国的にもどんどん進んでいるということではない。まだ試行段階といえる。

#### 5. 意見書について

提出なし

#### 6. その他

射場様：自己診断アンケートの中の教諭と教員の記述の違いは何か？

校長：「職階」。首席等も職階です。教職員と書くと全員となる。

鈴木会長：保護者から、意見書が出されるときはどんな時なのか？

校長：学校に言っても動いてもらえそうにない時、学校に指導してほしいという意見が出る。

この意見書のかたちは古い。電話一本で議員や支援教育課に連絡できる。

木崎教頭：以前、意見書が出た時は、給食の段階食を増やしてほしいという内容だった。

校長：重篤な事案が出ればこの議会で話し合う。

木崎教頭：事務連絡です。

第3回学校運営協議会は、2月開催を予定しています。1月にアンケートを送らせていただきます。

本日はありがとうございました。